

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703451		
法人名	株式会社 エルゼ		
事業所名	愛好の里 グループホーム 青春・明苑		
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1-26-20		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果確定日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設9年が経過し重度化して、活発な活動は難しくなってきていますが、入居者と職員が寄り添い、第2の家で家庭的な雰囲気最期まで穏やかに過ごしてもらえるように支援しています。今まで5名の入居者の方を看取りました。ご家族が苑で過ごせた思い出を残してあげたい、そして家族のように思っていた職員に最後まで看取って欲しいとホームで生活した自室で通夜、葬儀を行った方もおられます。家族の一員をなくした寂しさはありましたが、最期まで手を尽くし、ホームを最後に送り出すことが出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中の池に面して建てられ景観に恵まれ、町内会と相互の行事を連絡し合い、地域と交流が続いているグループホームである。「愛情をもって、明るく楽しく、共に笑う毎日を過ごします」の理念をモットーに開設9年目を迎えた。協力病院の訪問診療、訪問看護ステーションとの24時間の連携で、終末期が安心して送れる体制を作り、開設当初からの入居者の終末期の介護や看取りも、家族と一緒にやっている。管理者と職員が一体となって、生活を共にした入居者の看取りを経験したことは、職員の励みになっている。今年4月には認知症対応型通所介護を開設し、在宅の認知症高齢者の利用が始まり、近隣に元気で外出傾向のある利用者を見かけた時は連絡を依頼するなど、地域に開かれたサービスを提供するグループホームとして期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **愛好の里 グループホーム 青春・明苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、入居者・職員が寄り添い、家庭的な雰囲気を提供し共に笑える毎日を過ごせる様に努めている。	理念である「愛情をもって、明るく楽しく、共に笑える毎日を過ごす」を実践できるように、入居者の居心地の良い環境作りと笑顔をケア目標としている。入居者と共に過ごしている様子が伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には招待状を届けて頂けるので、出来る限り参加し町内の方々も声をかけてくださっている。そんな交流によって町内の一員としての参加が出来ていると思っている。毎年ボランティアの方が来苑されている。	開設当初から加入している町内会と、相互の行事を連絡し合い交流が続いている。今年4月から、デイサービスを開設しており、元気で外出傾向のある利用者を見かけた時は、連絡を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時には、民生委員の方に出席して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂くと共に、近況の報告、支援内容についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、包括支援センター、民生委員や入居者ご家族に苑での出来事・取組みについての報告を行っている。また、参加者の方々より、意見を出して頂く事で、サービスの向上につながることが出来ている。	運営推進会議の参加者はほぼ固定している。入居者の近況を報告し、民生委員等からの助言をサービスに反映させている。議事録を整備し、不参加の家族には日々の様子がわかる写真が添付された報告書を渡している。開設9年目を迎え、有意義な運営の在り方を模索している。	地域に開かれたサービスを目指して、老人会やPTAなどのより多彩な地域住民の代表者の参加の呼び掛けをお願いします。認知症高齢者への理解を得るような介護や学習会等を取り上げられてははいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方には、運営推進会議に出席していただき、意見交換を行っている。また、苑での悩み、困難事例等の相談を行い、より良い対応が出来るように取り組んでいる。	サービス提供が困難な事例について、民生委員や地域包括支援センターに相談し、意見交換をしている。地域のグループホーム連絡会の案内があり管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで課題にあげ、ケース検討を行い、拘束しない様にスタッフ間で工夫しケアを行っている。リビングの窓等を気候に合わせて、開放しているので入居者に対する見守りを徹底するよう努めている。	外出傾向のあるデイサービスの利用者には、気配りと目配りで対応している。スリッパのまま外出された時には、職員が同行して見守りを行っている。毎月開催するミーティングでは、職員間で各自の行為を確認し合い、体拘束をしないケアを実践している。	外出傾向のある利用者の安全確保の為、家族と話し合い、緊急連絡網を作られることをお勧めします。また、運営推進会議での検討議題にされてははいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング時実態のチェックを行っている。スタッフ間のお互いの目で確認し合い注意が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて学ぶ機会を持っている。以前、この制度を利用されていた方もおられた為、内容や必要性については体感することができた。今現在この制度を利用している方はおられない。	制度について、管理者は理解している。パンフレットは準備されており、入居者や家族への制度利用の必要性について、気配りをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に対し十分な説明を行い、疑問点や不安点がないかについても確認を行っている。理解を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑の際には直接話し、またご意見箱の設置も行っている。要望や意見を出して頂けるような環境作りは行っているつもりである。運営推進会議の中でも意見交換ができ、運営に反映できている。	毎月の利用料支払いに家族が来所している。その機会に、管理者や職員等が入居者の日常の様子を伝え、家族の要望や意見を聞いている。家族も、毎日の様子がわかり安心している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフトの組み合わせの要望・介護日誌の記載の改善など行っている。日々職員の意見を聞き入れ管理者・計画作成担当者と話し合い反映に努めている。	介護日誌の改善や夜間のおむつ交換について活発な意見が出され、サービス改善に反映させている。職員は、管理者に日々の気付きを伝え、管理者が必要時、運営法人の責任者と話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務・給与・福利厚生)は(株)エルゼに管理されているが職員の意見など働きやすいように改善を図る様にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	苑では性別・経験・年齢等は制限せず採用している。また未経験者であっても不安無く働けるよう研修から行っている。個人の希望休日の調整や急な勤務交代についても柔軟に対応している。	職員や知り合いからの紹介での採用が多い。職員の年齢は10代から70代と幅広く、資格に関係なくそれぞれの資質を活かした勤務体制を取っている。未経験者が採用の場合は、段階に応じて管理者や経験豊かな職員が研修を行い、不安なく働けるようにしている。資格取得を希望している職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員参加のミーティング時に人権についてのテーマを掲げ、教育を行っている。	ミーティングで入居者個別の人権が話題になることがあり、意見を交換している。	認知症高齢者の人権について、より深く理解していただくため、行政主催等の研修会に参加し、伝達講習会をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度のミーティングは全員参加し、社内研修を行っている。終末期の対応時には看護師による研修を行った。知識や技術の向上を随時図っている。未経験者には管理者自ら現場に出て、指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアプランセンターと連携し交流を深めつつある。包括支援センターの主催の地区の交流会に出席している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、必ずご本人及び家族と面談し、不安や要望等を伺っている。また安心を確保できるよう初期には特にご本人とのコミュニケーションを心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には、必ず本人及び家族と面談し、些細な事であっても気になっている点はお話して頂くようにしている。また、少しでも不安が解消され、より良い苑での生活が出来るようスタッフが対応させて頂く旨をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には、必要としている支援を見極め、御本人や家族の意向を確認した上で紹介する等の対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との対話を通して具体的な生活歴・個人史等を理解・尊重し、人生の先輩として礼節を持って対応している。個々が出来る事に取り組んで頂きながらお互いが支えあう関係を築いていけるような支援に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を支える上で必要と思われる点等を随時ご家族に御相談し、ご意見を伺っている。その上で、買い物や旅行、通院等必要に応じ、可能な点においてご家族様も支援に関わってくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部の方の面会や外出、外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるようにしている。	趣味の和太鼓でボランティア活動をしていた入居者は、現在も月2回、民謡とコラボレーションした練習を続けている。片麻痺のリハビリになり、ホームの行事での披露は生きがいにもなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフも交えてコミュニケーションをとったり、レクレーションや学習時間、何かを皆で行う時間を設け、孤立する事なく時間を過ごせるよう支援している。また、それぞれが可能な範囲のお手伝いを分担しながら行っており、見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族が苑に連絡を下さり、グループホーム検討している方に当苑を紹介して下さったり、逆にお困り事の問い合わせがあった際には支援や助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談・普段の会話の中から、希望等を聞き、その思いを尊重し、少しでもそれに沿う事ができるように努めている。また、日常生活の変化などの中からご本人の思いを汲み取り援助に繋げられるように心がけている。	家族や地域の居宅介護支援事業者、病院からの相談で入居される方が多い。ケアマネジャーは入居前後の面談で、家族や本人の意向と希望を把握している。職員は日々の暮らしの中での気づきを大切にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の面談や普段の会話の中で生活歴を聞きだすようにしている。それでも情報が不足する場合等はご家族や入居前に関わって頂いていたケアプランセンターへの問い合わせをおこなう。またそれらはスタッフ間で情報の共有を行う。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活状況、心身の状態についての観察を行い、職員間で情報の共有を行う。またそこから、ご本人に合ったスタイルのケアを心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の会議の中で入居者様の状況の変化・問題点や今後の援助について全職員で話し合い計画の作成・変更を行う。また、ご家族へ現状の報告を行ったうえで、ご家族のご希望も考慮しながら計画に繋げている。	利用開始の最初のミーティングの際に、ケアマネジャーから職員に介護計画を説明している。毎月モニタリングを実施するとともに、職員は気づきを管理者、ケアマネジャーに報告することで、情報を共有している。介護日誌に計画が表記され、支援が行われている。	個別性のある介護計画を明記することで、実施状況や成果、見直しが見易くなり、サービス向上につながることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子で普段と違うご本人の言葉や行動等を記録に残し、ケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、受診、送迎や個人希望の買い物等必要な支援には、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事には招待状を頂き、出来るだけ参加するように努めている。また、クリスマス時にはデッキのフェンスにイルミネーションを飾り、リビングにはツリーなどを置き、ボランティアの方に音楽の演奏をして頂きその時期の雰囲気を楽しんでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が苑のかかりつけ医による月2回の往診を受けており、状態の変化等があれば、随時相談を行い指示を受けている。ご家族へもその内容についての報告を行っている。また、ご家族の希望により入居前よりのかかりつけ医へかかっておられる方もある。	1名は入居前からのかかりつけ医にかかっているが、他の入居者は協力医による月2回の訪問診療を受けている。希望者には訪問歯科診療が受けられるように支援している。看護職員が週1回入居者の健康チェックをしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務、バイタル等体調確認を行っている。1週間の状態、気づきなどを伝え、相談を行う。体調不良の入居者は、随時看護師、かかりつけ医へ連絡を密に行い、適切な受診や看護、服薬を出来るよう対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院中には出来るだけ様子を見に伺い、医師・看護師よりの情報を得るようにしている。具体的な退院後の生活について、相談・検討を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に苑としての考え方、今までの看取りの事例について管理者がご家族に説明を行っている。また、体調が悪化された際には、看護師も含めて今後の方針等ご家族の要望を伺い、その方向で支援を行っている。要しに家族の希望により看取りから葬儀までを苑にて行い、送り出した方もおられる。	看取りについての同意書を入居時に説明しているが、状態が変化する度に説明して同意を得ている。24時間連携できる訪問診療と訪問看護の支援を受け、管理者と職員が一体となり、安心して終末期の支援に取り組んでいる。職員は家族同様の入居者をホームで看取れることを喜びに感じている。現在も本人、家族から終末期や看取りへの希望があり、積極的に支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、週1回の看護師勤務時に、指導やアドバイスを受けている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者を交えた避難訓練の他、全職員で定期的に避難訓練を実施し災害時に対応できるように備えている	地域の消防署の協力で、来月12月に水消火器での消防訓練を予定している。消火器、スプリンクラーが設置されている。町内には放送設備がある。	住宅地と隣接しているため、今回の消防訓練を機会に、地域住民への周知と協力を依頼され、運営推進委員会を同時開催とされるなど、協力の輪を広げられることをご勧めします。また、居室入口の搬送順位のステッカーの見直しをお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない対応を行うよう、入居者様への呼びかけ、話し方などについて管理者が指導しており、視線を合わせ、人生の先輩方として接するよう心がけている。また不適切な対応がないか職員同士で気を付けている	入居者の認知力に応じて、名字や名前で呼びかけている。難聴の人への対応に苦慮しているが、表情や、仕草で穏やかに対応できることように心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が個人で希望される必要な品物がある際は職員が同行し買い物に出かける。ご自分で好きな品物を選び、購入できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	陽当たりがよく、明るい開放的なリビングで殆ど入居者さんが1日の大半をリビングにて過ごされている。ご家族と外出、テレビを見たり、字の練習をしたり、読経、歌を唄う、敷地内の観音様をお参りされるなど個々の思いにて自由に過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食事時以外ベッド上で過ごす方も離床時毎回髪をとき、身だしなみを整えて、移動している。また定期的な散髪にも配慮、眉カットやお化粧もしてもらい、若い頃に戻ったようだととても生き生きとした表情になれる。お顔の手入れや、お化粧、また洋服のこだわりなど、生活歴や希望を把握し、支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りを基本に献立を作成、旬の食材を取り入れ、時には入居者さんの希望のメニューを組み込んでいる。おやつも手作りを心がけている。テーブル拭きやセッティング等出来る範囲内で一緒にお手伝いをして頂いている。筍・フキなど季節感を味わいながら一緒に剥いて頂いたりしている。	季節の食材を使った献立を職員が考え、管理者が入居者と食材の購入に出かけたりしている。職員も一緒にテーブルを囲み、会話をしながら、同じ献立を食している。自発的な食事摂取がなく点滴で栄養を補給していた入居者は、誤嚥を注意しながら経口摂取を始めて、ミキサー食を摂取できるようになり、表情も穏やかになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材等を取り入れバランスを考えながら職員が献立を立てている。歯や嚥下状態に応じ、食材と食事形態の工夫をしている。水分摂取量は1日1500ccを目安にしており、記録をとっている。摂取量が少ない方には声掛けや時間をおいた摂取を試み、目安量の確保ができるよう取り組んでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度歯科による治療・口腔ケア指導を受けている。毎食後口腔ケアを行い仕上げは本人の力に応じて援助・アドバイス・確認を職員が行っている。また、舌の汚れにも気を付けており、舌ブラシにてケアを行っている。義歯の方は就寝前、洗浄剤に毎日漬け置き洗浄をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや便薬の服用状況を把握、状況と状態に応じたこまめなトイレへの声掛け、おむつ交換を行い衛生維持を心がけている。	日頃から、ラジオ体操や体を動かすレクリエーションを取り入れたり、緩下剤等も使用しながら、心地よい排泄の管理を心掛け、排泄表に記録している。トイレも3か所あり、車椅子や歩行器使用に工夫されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に野菜サラダや豆腐、具だくさんの味噌汁、煮豆、わかめごはん、芋やバナナなどを多く取り入れ飲食物は工夫をしている。牛乳も毎日飲んで頂き、毎朝ラジオ体操も実施している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	檜材使用、大きなガラス張りでもとも眺めが良く、温泉気分を楽しんで頂ける浴室です。隔日毎にゆっくりと楽しく入浴してもらう事ができるような個々に応じた入浴の支援を行っている。希望があれば1人だけの入浴、気の合う方同士で入浴することも可能。	建物の角地で、二面にガラス窓があり、池で遊ぶ鳥たちを眺めながらの入浴が楽しめる浴室である。両サイドから入浴介助ができる仕様になっている。寝たきりの入居者には、おふるマットを利用したシャワー浴など個別に工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を活かした部屋作りを心がけ、安心して休息や入眠が出来るように支援している。また、一人を寂しがる方にはソファでの休息、ベッドより転落の恐れがある方には和室での就寝を促す。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんが使用される薬には毎日日付を記入し服薬忘れのないよう、また状態の変化や緊急時にはかかりつけ医の指示により服薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	和太鼓と民謡の上手な入居者さんが皆さんの前で披露されたり、一緒に歌ったり。敷地内の花壇に花を植えたり、町内へ散歩に出かけたりと1人1人の生活歴を活かしながらそれぞれが気分転換できるよう支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自発的に外出の希望者が少ないため、入居者の食材の買い物と一緒に出かけたり近くの公園まで散歩に出かけたりする。日曜日、天気、気候の良い時には心がけて外出する機会を持つようにしている。	車椅子や歩行器利用の入居者が多くなり、以前より外出の機会が減ったが、敷地内の地蔵様へのお参りや、お気に入りの化粧品、日用雑貨購入のため、百円均一やドラッグストアへ買い物に出かけている。ホームの周囲は交通量も少なく、車椅子や歩行器での散歩には適した環境である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は所持して頂いているが、そうでない方や家族に希望がある方は管理者が管理している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙について、入居者の要望があれば対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと対面になっているキッチンから調理音や臭いを身近に感じることが出来る。季節に応じた温度管理を行い、大きな窓から見える景色と、差し込む陽の光、季節感を満喫しながら快適に生活できるようにしている	東、南、西の三方が吹き抜けの窓で、一年中日当たりは抜群である。ベランダの先には池が広がり、池に住む鳥や亀等が眺められる。入居者は一日の大半をリビングで過ごし、お気に入りのソファで、それぞれ寛ぎ、職員も作業をしながら声かけや目配りをしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内の和室、ソファー・ダイニングテーブルを好きな時に自由に利用できるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや畳など入居者の生活習慣に合わせて部屋作りを行いなじみの物や位牌、家族の写真等を置き居心地の良い部屋になっている	入居者が使い慣れたテレビやタンスなどが持ち込まれ、お位牌や家族の写真が飾られた清潔な居室である。身体状況に合わせて、畳を敷く場合もある。馴染みの仲間と一緒に和太鼓や民謡の練習を居室でする入居者もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光、バリアフリー、手すり設置の他行動範囲内の障害物を排除し、一人でも安全に移動が出来る環境づくりに努めている。		